

# 1 認知症について理解しましょう

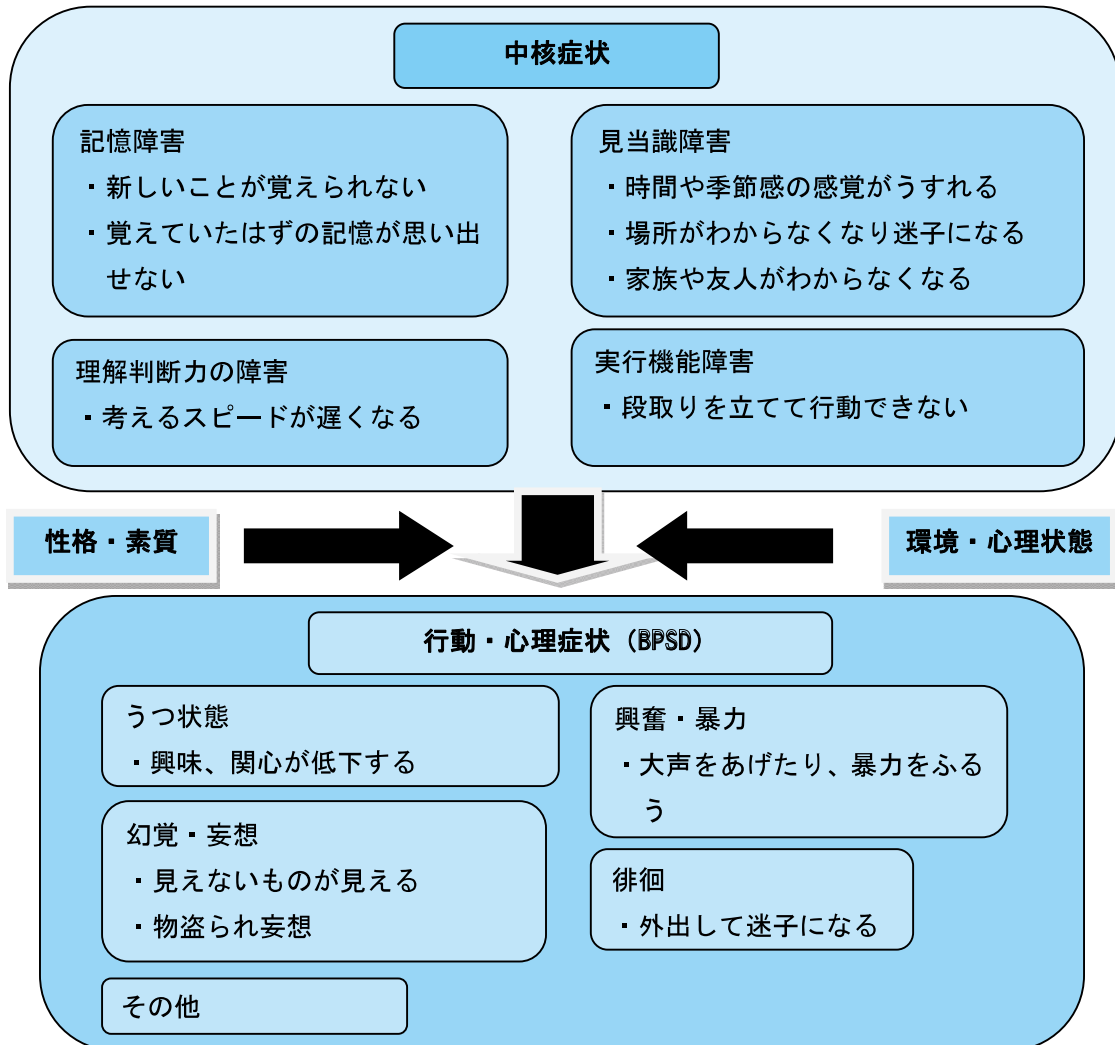
## ○認知症とは

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることで、認知機能（情報を分析したり、記憶したり、思いだしたりする機能等）が低下し、さまざまな生活のしづらさが現れる状態をいいます。

認知症は、めずらしい病気ではなく、誰にも起こり得る病気で、早期発見・早期診断、適切な治療や介護などにより、症状の改善や進行を遅らせることができます。

また、脳の病気や内科的な病気により、認知症状が出現していることもありますので、専門的な医療機関への受診がとても大切です。

症状は脳の細胞がこわれることによって直接起こる「**中核症状**」と、本人がもともと持っている性格や環境、人間関係などさまざまな要因がからみあって、うつ状態や妄想のような精神症状や、日常生活への適応を困難にする行動上の問題が起こる「**行動・心理症状**」があります。



## ○認知症の原因となる主な脳の病気

認知症の原因となる病気には、主に「アルツハイマー病」、「脳血管疾患」、「レビー小体病」、「前頭側頭型認知症」があり、最も多いのがアルツハイマー病で全体の約6割を占めます。

### ★アルツハイマー型認知症

#### ○どんな病気

脳の神経細胞が広範囲で変性し、その結果、脳全体が萎縮していきます。脳の変性が少しずつ進み、脳全体の機能が低下するため、重症化しやすいとされています。

#### ○特徴的な症状

はじめは記憶障害の症状がみられ、進行すると場所や時間、人物などの認識ができなくなったり、身体的な機能も低下して動きが不自由になったりします。進行の度合いには個人差があります。

### ★脳血管性認知症

#### ○どんな病気

脳梗塞や脳出血など脳の血管障害によって、脳細胞に十分な血液がいきわたらなくなり、脳細胞が死滅することによりおきます。

#### ○特徴的な症状

手足のまひや視力障害など神経障害を伴うことが多く、発作を起こした部分の機能は損なわれますが、脳全体の機能の低下は少ないです。

### ★レビー小体型認知症

#### ○どんな病気

脳の神経細胞に「レビー小体」という特殊なタンパク質が大脳皮質全体に多く出現するので、「レビー小体型認知症」と呼ばれています。脳の側頭葉と後頭葉の委縮が見られることが特徴です。

#### ○特徴的な症状

アルツハイマーやパーキンソン病に似た症状がみられます。初期からの「幻視」や睡眠時の大きな声の寝言や異常な行動がみられることがあります。

### ★前頭側頭型認知症（ピック病）

#### ○どんな病気

脳の神経細胞が前頭葉と側頭葉を中心に変性しこわれていくことによって、いろいろな症状が出てくる認知症です。

#### ○特徴的な症状

他人に配慮することができないとか、周りの状況にかかわらず自分が思ったとおりに行動してしまう、という性格変化や行動異常がみられます。

## ○重要です！ 認知症の早期発見、受診、診断、治療

認知症はどうせ治らないという考え方は間違いです。

認知症は早期に発見すれば、治療によって進行を遅らせることや、症状を軽くすることができます場合もあります。

また、正常圧水頭症、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫などにより認知症状が現れた場合は、脳外科的処置で劇的によくなる場合もありますし、内科的な病気の治療や服薬管理をすることで認知症状が改善されることもあります。

## ○MC I（軽度認知障害＝認知症予備軍）を見逃さないで！

健常者と認知症の人の中間の段階（グレーゾーン）にあたります。

MC Iは認知機能（記憶、決定、理由づけ、実行など）のうち1つの機能に問題が生じてはいますが日常生活には支障がない状態のことです。

MC Iの段階で認知機能の低下にいち早く気づき、生活習慣を見直すなどの予防対策を行うことで症状の進行を阻止することはとても重要です。

## ○認知症を予防しましょう！

（認知症を防ぐ10の心がけ）

1. 塩分と動物性脂肪をひかえたバランスのよい食事を
2. 適度に運動を行い足腰を丈夫に
3. 深酒とタバコはやめて規則正しい生活を
4. 生活習慣病（高血圧、肥満など）の予防・早期発見・治療を
5. 転倒に気をつけよう 頭の打撲に気をつけよう
6. 興味と好奇心をもつように
7. 考えをまとめて表現する習慣を
8. こまやかな気配りをしたよい付き合いを
9. いつも若々しくおしゃれ心を忘れずに
10. くよくよしないで明るい気分で生活を

- 参考 「認知症ねっと」より -



## 若年性認知症について

認知症は一般に高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症することもあります。この場合を「若年性認知症」と呼びます。

原因や症状は、高齢者の認知症と基本的には同じですが、高齢者の認知症の原因ではアルツハイマー型認知症が最も多いのに対し、若年性認知症では脳血管性認知症や前頭側頭型認知症、頭部外傷などの割合が高い等の傾向がみられます。

若くして発症すると働き盛りであることが多く、失業などの経済的課題や、配偶者や子どもがいる場合の介護負担や心理的影響も大きくなります。

利用できる制度等について、行政や関係機関に早めに確認すると良いでしょう。

## 〈参 考〉

## 若年性認知症の人への支援制度等

内 容	問合せ
<p>○自立支援医療（精神通院医療）</p> <p>指定された医療機関での治療に関しては、通院にかかった医療費が1割負担となります。</p> <p>また、本人の収入・世帯の所得に応じて負担の上限が決められています。給付の有効期間は1年間で、更新には手続きが必要です。</p>	<p>福祉総務課 障害福祉係</p> <p><b>0833 - 74 - 3001</b></p>
<p>○障害者手帳</p> <p>身体的に問題がなく、アルツハイマー型認知症などの診断を受けた場合には精神障害者保健福祉手帳が申請できます。</p> <p>また、脳血管性認知症などでは麻痺などが残っている場合もあり、身体的な障害が大きければ、身体障害者手帳が申請できます。</p> <p>等級などによって異なりますが、障害者手帳を保持していることで所得税住民税の控除や自動車税の減免、JR、バス・タクシー料金の割引などが受けられます。また、再就職ができる状態であれば、障害者枠で働く事ができます。申請は認知症の診断を受けるために受診した日（初診）から6か月後から可能です。</p>	

<p>○傷病手当金</p> <p>病気や怪我のために、休職を余儀なくされた場合に支給される手当金です。</p> <p>病気などで3日以上続けて休んだ時に、4日目から標準報酬日額の2/3の金額を、最長1年半支給してもらえます。</p> <p>医師や事業主の証明が必要となります。</p>	<p>全国健康保険協会（協会けんぽ）または健康保険組合 各勤務先の労務担当</p>
<p>○障害年金</p> <p>病気やけが等で就労の継続が困難となった方に支払われる公的年金です。</p> <p>認知症の診断を受けるために受診した日（初診）から1年半後に申請ができます。（初診時に加入していた年金制度により請求先が変わります。）</p> <p>障害基礎年金は、1級または2級（障害者手帳の等級とは関係ない）の障害状況で、認知症と診断された月の前々月までに、加入している年金の2/3を滞らず納めていることが必要です。</p> <p>受給資格についての細かな条件もあり、医師の診断書などが必要です。</p>	<p>市民課 年金・高齢者医療係 <b>0833 - 72 - 1400</b> 徳山年金事務所 <b>0834 - 31 - 2150</b> 各共済組合</p>
<p>○住宅ローン支払い免除</p> <p>住宅ローンが残っていても、支払えなくなることも考えられます。ローン契約内容に特約制度として「高度障害状態」になった場合は、支払いが免除されるなどと規定しているものもあります。</p>	<p>金融機関</p>
<p>○生命保険の高度障害保険金</p> <p>認知症の程度が高度障害と認められれば、死亡保険金と同額が支払われることとなります。またその場合、支払い以降の保険は解約となります。ただし、自分で身の回りのことができる状態である間は、これに該当しない場合が多いようです。</p>	<p>加入している保険会社</p>

